

## 医学教育に関する自己点検・評価の合同アンケート調査\*1

岩 崎 榮\*2

### はじめに

1991年3月の大学設置基準の改正は、大学での教育研究の個性化・多様化・高度化の促進を求めるさまざまな要請に応えるものとなり、いわゆる設置基準の大綱化、簡素化により、各大学が自主的、自律的に教育研究のあり方を自由に創意工夫し決断して実行することができるようになった。それとともに、自大学の責任もそれなりに重要性が増し、つねに、自己の責任において教育水準を維持するのみでなく、今日よりも明日を目指して教育や研究の質を改善・向上させていくことが、大学が社会に対して負っている責任を果たすことになる。それがために、大学の組織や教育研究活動を不断に検証するという重い責任を担うことになっているのである。

大学設置基準の大綱化により、各大学がその理念・目的の実現のためにその組織のあり方、教育研究活動を常時検証するための自律的システムを構築し、自己点検・評価をしていくことが強く求められている。

それらの自己点検・評価の結果を学内の組織、教育研究活動にフィードバックすることにより改善・改革を図っていくことが必要とされる。

ことに医科大学（医学部）における自己点検・評価は、従来の教育選考基準の研究ペーパーの数重視の弊害からも、研究に偏重してきたきらいがあるが、もっともっと教育を重視し、さらに臨床教育に重点を移していく必要がある。そのような

意味からは、医科大学（医学部）での三大柱とされる教育、研究、臨床のうちの臨床面での教育・研究活動がおろそかにされる傾向であり、この点の大いなる反省が求められる。

かかる観点から、現在の医科大学（医学部）での自己点検・評価において、教育・研究・臨床の場となる大学附属病院そのものの自己点検・評価が行われる傾向となっていて喜ばしい現象である。

この点に関して、日本私立医科大学協会では、1992年機能評価問題検討小委員会が設置され、ここにおいて「大学病院としての機能評価マニュアル」が作成されることとなり、専門委員が加えられて、機能評価問題検討小委員会・専門委員会合同会議の手でその作成が進められた。1994年5月に「大学病院としての機能評価マニュアル」が完成し、世の中に公表されたわけである。しかし、残念ながらその利用はいまだしのようなのである。

一方、日本の全病院（その他の医療施設を含む）を機能評価するための日本医療機能評価機構も設立されており、2年間の運用調査（フィージブル・スタディ）を終わって、1997年4月より本稼働を開始している。

このような病院を評価することは、病院が提供している医療の質（内容）を評価することであり、ひいては、医師が提供している診療の質を評価するものである。

医療の質を評価することにおいて、医師を養成している医科大学（医学部）の教育、研究、臨床の質（内容）を点検することはもっとも大切なことである。

かつてアメリカにおいては、1910年『当時のアメリカにおける医学教育の質の面からの医学校のあり方を提言した Flexner Report<sup>1)</sup>』はつとに有

\*1 A National Survey on Self Assessment for Medical Education

キーワードズ：大学設置基準の大綱化、自己点検・評価、医科大学（医学部）へのアンケート調査

\*2 Sakai IWASAKI 日本医科大学

名であるが、今日の日本の医学教育の現状は、このような Report を待ち望んでいるのかもしれない。

ともあれ、いつの時代であれ、時代を超えて自己点検・評価は重要であり、大学自らがやるべきことである。

今後は、一部の大学がすでに行っている第三者の評価者によって大学評価が行われるようにしていくべきであろう。

教育病院（臨床研修病院）においては当然のことながら、第三者（日本医療機能評価機構による）による評価を受けることは最低要件であり、その上に臨床研修の質を評価することになる。

### 1. 医科大学（医学部）における自己点検・評価の現状調査（1997年10月アンケート調査による）

#### 1) 調査方法ならびに調査対象

全国の80の医科大学（医学部）に対し、自己点検・評価の実施についての現状調査を郵送によるアンケート方式により1997年10月に行った。

アンケートの直接対象者は各医科大学（医学部）の医科大学長・医学部長であるが、アンケートの記入責任者とは必ずしも一致していない。

#### 2) アンケート調査に対する回答状況

全国80医科大学（医学部）より1997年11月25日現在の回答数は64である（回答率80.0%）。

その内訳は、

国立	44校中	37 (84.0%)
公立	7校中	5 (71.4%)
私立	29校中	22 (75.8%)

となっている。

#### 3) アンケート調査の結果

設問③、自己点検・自己評価（以下評価という）を行っている医科大学（医学部）（以下医学校という）は回答のあった64校中60校（93.7%）であった。国立と私立との差はほとんどなく、公立がやや低い（表1）。

設問④、評価を行うための組織が作られているかの設問に対し、私立医科大学の1校のみに作っていないという回答が得られた。

なお、評価を行っていないと回答のあった4校

表1.

#### ③ 貴医科大学（医学部）では評価を行っていますか

	国立	公立	私立	計
はい	35	4	21	60
いいえ	2	1	1	4

#### ④ 評価を行うための組織がありますか

	国立	公立	私立	計
はい	34	5	21	61
いいえ	0	0	1	1

のなかで、なぜ評価を行っていないかの理由については、必要ないと回答はまったくなく、準備中が2校、その他の手法で評価が代替できる（学位授与機構による教育研究実施状況などの審査による、カリキュラム委員会などの各種委員会による審議で代行できる）としている。

設問⑦、評価はいつ行っているかに対しては、64校中18校（28.1%）が年1回、11校（17.1%）は2年に1回、7校（10.9%）は3年に1回、4年に1回は4校、5年に1回は1校、その他20校、不定期とした医学校がみられた。

ほとんどの医学校において評価委員会は月1回程度行われている現状も明らかとなった。

設問⑧、評価の方法としては、自己点検が60校（93.7%）で行われており、大学基準協会による相互評価が国立において3校、私立において3校の計6校で行われている。

第三者の評価機関などによる第三者評価については、国立の6校がすでに導入実施している（表2）。

設問⑨、評価の結果の公表については、公表していない4校、学内に限って公表5校を除いてはすべて学内外に公表していると回答している（表3）。

設問⑩、評価の結果を報告書の形に作成しているかどうかについては、毎年1回が15校、2年ごとが10校、3年ごとが7校、4年ごとが5校、その他となっている。なお、報告書が作成されていない3校（国立1校、私立2校）もあった。

設問⑪、評価結果の医学教育へのフィードバックについては、教授会にフィードバックしているとしたものももっとも多く、ついで全教員に対し

表 2.

## ⑧ 評価はどのような方法で行っていますか

	国立	公立	私立	計
1. 自己点検・評価	34	4	22	60
2. 相互評価（大学基準協会による）	3	0	3	6
3. 第三者評価（第三者の評価機関等による）	6	0	0	6
4. その他	2	0	1	3

表 3.

## ⑨ 評価の結果は公表していますか

	国立	公立	私立	計
はい a. 学内に限って公表している	2	0	3	5
b. 学内外に対して公表している	32	4	16	52
いいえ	1	0	3	4

表 4.

## ⑩ 評価結果はどのような形で医学教育にフィードバックしていますか（複数回答可）

	国立	公立	私立	計
1. 全教員に十分にフィードバックしている	18	2	6	26
2. 全学生に十分にフィードバックしている	4	0	0	4
3. 教授会でフィードバックしている	17	2	12	31
4. 教育委員会やカリキュラム委員会にフィードバックしている	17	1	11	29
5. 報告書を配付しているのみにとどめる	11	1	8	20
6. とくにフィードバックしていない	1	0	0	1
7. その他	3	0	2	5

表 5.

## ⑫ 貴附属病院の機能評価をしていますか

	国立	公立	私立	計
1. 自己点検・評価	30	3	16	49
2. 第三者評価	3	0	1	4
3. その他	5	1	5	11

でのフィードバックとなっていて、報告書を配布するにとどめるとしたものが多く、それに対し、全学生にフィードバックするとしたものは、4校にとどまり、とくにフィードバックしていないものも1校にみられた。

そのほか、自由意見として、評価結果を教育改革にフィードバックすべくワーキンググループを編成しているとするもの、カリキュラム自己点検・評価委員会を設置して、より具体的な点検・評価を実施しているとしたところもある（表4）。

設問⑫、附属病院の機能評価については、64校

中49校（76.5%）が評価していると回答しており、第三者評価で行っているところも4校みられている。そのほか、近く行う予定とか、病院企画運営委員会で実施中、附属病院の評価のための委員会を発足したばかり、などの回答が寄せられている（表5）。

設問⑬、日本医療機能評価機構（以下機構）の周知度については、64校中46校（71.8%）がその存在を知っているとしている。機構にすでに受審依頼しているのが国立の1校で、私立の1校はすでに受審済みということであった。また、受審

表6.

⑬ 第三者の病院機能評価を行っている日本医療機能評価機構(以下機構)についてお尋ねします

	国立	公立	私立	計
1. 存在を知っている	28	2	16	46
1) 附属病院の評価はすでに機構に受審を依頼している	1	0	1	2
2) 附属病院の評価は機構に受審の申し込みを準備している	4	1	0	5
3) 附属病院の評価は機構の受審は考えていない	22	0	10	32
4) その他	3	1	5	9
2. 存在を知らない	7	2	4	13

表7.

⑭ 日本私立医科大学協会で作成された「大学病院としての機能評価マニュアル」(1994年5月作成)のことを知っていますか

	国立	公立	私立	計
1. 知っている	15	2	19	36
1) 活用している	6	1	9	16
2) 活用していない	8	1	9	18
2. 知らない	21	4	2	27

の申し込み準備をしているが国立の4校、公立の1校の計5校にみられ、その一方で受審を考えていないとした国立の22校、私立の10校、合計32校(50.0%)にみられた。機構の存在を知らないとしたもの国立7校、公立2校、私立4校、合計13校(20.3%)にみられた(表6)。

設問⑭、日本私立医科大学協会で作成された「大学病院としての機能評価マニュアル」の周知度については、知っているとしたもの国立15校、公立2校、私立19校、合計36校(56.2%)であった。なお、マニュアルを活用しているとしたもの国立6校、公立1校、私立9校にとどまっている。マニュアルの存在を知らないとした27校中、私立の2校があった(表7)。

設問⑮、各領域別に評価しているかどうかの設問に対して、表8に一括したものを示す。比較的評価されていない領域別項目としてあげられたものに、①教員の出身大学別構成②教員の年齢構成③教員の採用、昇進の手順・基準④教員の兼職の方針と状況⑤教員人事の将来の改善方策⑥学生の編入学の方針⑦カリキュラム・ガイダンスの実施状況⑧教員1人当たりの授業時間数⑨科目担当者

間での授業内容の調整⑩学習方略の工夫状況⑪他大学との単位互換の方針と状況⑫教員の教育活動の評価⑬研究費の配分方法⑭留学生の指導体制⑮在学生の海外留学の方針と状況⑯教員の海外留学の方針と状況⑰社会人の受入れ⑱教員の学外活動⑲教育に関する意志決定の方法・体制⑳予算の編成と執行の方針と状況㉑評価をフィードバックするためのしくみ、などとなっている。

設問⑯、評価項目でもっとも重視しているものとしては、教育活動、研究活動、教育理念・目標の順であげられている。

設問⑰、評価が医学教育に役立つと考えられるかに対して、きわめて役立つが19校、少しは役立つ34校、合計53校(82.8%)となっている(表9)。

### まとめ

大学設置基準の大綱化により、医科大学(医学部)においても自己点検・評価がすすめられているが、全国の医科大学(医学部)を網羅しての自己点検・評価についての現状調査は知る限りにおいて今回が初めてであろう。

表 8.

⑮ 次の評価項目で、評価の有無をお答え下さい

		国立	公立	私立	計
1) 教育の理念・目標の設定	評価している	32	4	18	54
	評価していない	2	0	3	5
教育理念・目標の点検・見直し	評価している	26	4	17	47
	評価していない	5	0	4	9
教育についての将来の改善への方策	評価している	30	4	17	51
	評価していない	2	0	3	5
		国立	公立	私立	計
2) 教員組織の現状	評価している	30	3	17	50
	評価していない	3	1	4	8
教員組織の点検・見直し	評価している	22	2	16	40
	評価していない	7	1	3	11
教員組織の改善への方策	評価している	20	2	16	38
	評価していない	8	1	4	13
		国立	公立	私立	計
3) 専任教員・非常勤講師の配置状況	評価している	29	4	17	50
	評価していない	7	0	4	11
出身大学の構成	評価している	12	2	4	18
	評価していない	17	1	14	32
教員の年齢構成	評価している	14	1	5	20
	評価していない	14	2	15	31
教員の採用、昇進の手順・基準	評価している	18	2	12	32
	評価していない	11	2	7	20
教員の兼職の方針と状況	評価している	15	1	5	21
	評価していない	14	3	13	30
教員人事の将来の改善方策	評価している	15	2	12	29
	評価していない	13	1	7	21
		国立	公立	私立	計
4) 学生募集・入学者選抜の方針	評価している	29	4	19	52
	評価していない	5	0	2	7
学生定員充足状況の点検	評価している	26	2	17	45
	評価していない	6	2	4	12
編入学の方針	評価している	23	1	5	29
	評価していない	9	2	14	25
学生受け入れの将来のあり方	評価している	25	3	15	43
	評価していない	7	0	5	12
		国立	公立	私立	計
5) 学生生活相談	評価している	25	4	19	48
	評価していない	6	0	2	8
学生の課外活動状況	評価している	26	4	18	48
	評価していない	6	0	3	9
学生生活の改善方策	評価している	22	2	17	41
	評価していない	8	1	3	12

表8. つづき

		国立	公立	私立	計	
6)	カリキュラムの編成方針	評価している	31	4	20	55
		評価していない	2	0	1	3
	カリキュラムと教育理念（目標）との整合性	評価している	29	3	20	52
		評価していない	3	1	1	5
	一般教育のカリキュラム全体との位置付け	評価している	27	3	19	49
		評価していない	6	1	2	9
	外国語教育のカリキュラム上の位置付け	評価している	22	2	16	40
		評価していない	9	2	5	16
	専門教育のカリキュラム全体とのバランス	評価している	4	3	19	26
		評価していない	8	1	2	11
	カリキュラムの見直し・改善の方向性	評価している	29	4	19	52
		評価していない	4	0	2	6
			国立	公立	私立	計
	7)	科目ごとの授業計画（シラバス）の作成状況	評価している	27	2	15
		評価していない	5	2	6	13
カリキュラム・ガイダンスの実施状況		評価している	21	2	13	36
		評価していない	11	2	7	20
教員1人当たりの授業時間数		評価している	12	2	9	23
		評価していない	16	2	10	28
科目担当者間での授業内容の調整		評価している	21	2	12	35
		評価していない	9	2	8	19
学習方略の工夫状況		評価している	18	2	14	34
		評価していない	11	2	7	20
他大学との単位互換の方針と状況		評価している	10	2	6	18
		評価していない	17	1	13	31
進級状況		評価している	26	1	19	46
		評価していない	6	2	2	10
教員の教育活動の評価		評価している	19	2	13	34
		評価していない	11	2	7	20
成績評価、単位認定の基準の認定		評価している	20	2	16	38
		評価していない	9	1	5	15
国家試験結果のフィードバック		評価している	21	2	16	39
		評価していない	9	2	5	16
学部卒業生の大学院進学状況		評価している	28	4	12	44
		評価していない	6	0	7	13

表8. つづき

		国立	公立	私立	計	
8)	教員の研究成果の発表状況	評価している	33	3	21	57
		評価していない	1	1	0	2
	研究誌の発行状況と編集方針	評価している	22	2	13	37
		評価していない	8	1	5	14
	共同研究の実施状況	評価している	27	3	14	44
		評価していない	4	1	6	11
	研究費の財源	評価している	22	4	12	38
		評価していない	9	0	7	16
	研究費の配分方法	評価している	14	1	13	28
		評価していない	15	2	6	23
	学会活動への参加状況	評価している	26	3	11	40
		評価していない	4	1	8	13
			国立	公立	私立	計
	9)	教育施設設備の整備・運用状況	評価している	29	4	18
評価していない			3	0	2	5
図書館の利用状況		評価している	30	4	17	51
		評価していない	4	0	3	7
情報システムの整備・活用状況		評価している	29	4	18	51
		評価していない	4	0	2	6
		国立	公立	私立	計	
10)		留学生の受け入れ状況	評価している	31	3	11
	評価していない		3	1	8	12
	留学生の指導体制	評価している	18	0	7	25
		評価していない	10	3	11	24
	在学生の海外留学の方針と状況	評価している	14	0	11	25
		評価していない	15	3	8	26
	教員の海外留学の方針と状況	評価している	21	1	14	36
		評価していない	11	2	5	18
	海外からの研究者の受け入れ状況	評価している	29	4	11	44
		評価していない	3	0	8	11
	海外の大学との交流状況	評価している	25	3	11	39
		評価していない	6	1	9	16
			国立	公立	私立	計
	11)	公開講座の開設状況	評価している	28	3	11
評価していない			4	1	9	14
社会人の受け入れ		評価している	17	0	4	21
		評価していない	10	2	16	28
教員の学外活動状況		評価している	24	2	7	33
		評価していない	9	2	12	23

表 8. つづき

		国立	公立	私立	計
12) 教育研究に関する意志決定の方法・ 体制 予算の編成と執行の方針と状況 学外資金の導入状況	評価している	17	2	11	30
	評価していない	12	1	10	23
	評価している	21	1	12	34
	評価していない	9	2	9	20
	評価している	21	3	15	39
	評価していない	9	0	5	14

  

		国立	公立	私立	計
13) 自己評価を行うための学内組織 教育研究活動等の公表 評価をフィードバックするためのし くみ	評価している	28	4	19	51
	評価していない	4	0	2	6
	評価している	30	3	16	49
	評価していない	3	1	4	8
	評価している	16	2	12	30
	評価していない	12	1	9	22

表 9.

⑰ 自己点検・自己評価が医学教育に役立つと考えられますか

	国立	公立	私立	計
1. 極めて役立つ	11	2	6	19
2. 少しは役立つ	18	2	14	34
3. ふつうに役立つ	6	1	1	8
4. あまり役立たない	0	0	0	0
5. ほとんど役立たない	0	0	0	0

アンケート調査の設問項目が多く、回答に困難であった項目もあったと思われるが、全国の医科大学（医学部）においては絶大なる協力が得られたことに満足している。

また、短期間の調査であったにもかかわらず確かな回答をいただいたことなどを加え、終わりにのみ、調査に協力いただいたすべての医科大学（医学部）の関係者に深く感謝申し上げる次第である。

この調査結果は「医学教育白書 1998 年版」に掲載する形で、各医科大学（医学部）への調査結果報告とする。

文 献

- 1) Flexner A : Medical Education in the United States and Canada. A Report to the Carnegie Foundation for The Advancement of Teaching, New York, 1910

\* \* \*